大和鋼業（やまと） 株式会社

3Sを徹底し、化粧品工場向けタンクで成長中

納期相談
企画力自信有
メイドインジャパン
試作可小ロット

圧力容器の製造現場

業務内容 30―40代の若手職人が活躍する製缶工場

「大和（やまと）鋼業」は化学や食品、医薬品、化粧品の工場などで使われるステンレス製タンク（圧力容器）を製造している。最近では、化粧品工場の投資が活況で同社への追い風となっている。

従業員数は15名。製缶職人として脂の乗った30―40代が中心で、大竹順社長は「切る・曲げる・付ける（溶接）を何でもこなす」と話す。ある社員はこの能力を生かし、釣り道具を自ら製作。これがきっかけで、「松坂ギャフ」などの自社ブランド品も手がけるようになった。

強み 高度な技術力による高品質な製品を提供

同社はリーマンショック後、スキル向上のために資格取得の奨励に努めてきた。現在は社員全員が製缶加工に必要な技能資格を持つ。普通ボイラー熔接士はもちろん、JWESステンレス鋼熔接技能資格の専門級を多数持つ職人達による高品質な製品を提供。特に熔接技術の資格は更新制のため、「緊張感があり、社員のモチベーション向上につながる」と大竹社長は語る。

また、本来外注もしくは取引先が行う品質検査作業において、非破壊試験技術者の資格をもつ社員が品質検査も行うことで顧客からの信頼を得ている。

会社改革 ISOと3Sが浸透

平成26年にISO9001取得の一環で3S（整理・整頓・清掃）活動を始めた当初、少なからず抵抗もあった。それでも3S活動を断行した結果「10tトラックで4往復する」ほど不要なものを廃棄に成功。作業スペースが増え、従来できなかった仕事も引き受け可能となった。平成30年1月期の売上高は前年度比約20％増えて2億4,000万円強だった。

品質管理では製造時の不具合を文書に残し、毎月初めに社内で共有する。大竹社長は「些細なミスでも必ず書いてもらうし、私自身も書く。全員が共同認識を持ち、同じ過ちを繰り返さないことで定着した」という。意識向上のほか、職人の悩みの共有にもつながっている。

今後の展望 設計提案型の企業を目指す

業績は伸びている一方、繁忙に伴って外注費が増えるなどの課題もある。「化粧品分野が好調なこの1―2年のうちに、会社の体制を発展させたい」と大竹社長は意気込む。

まず経理や営業を担う人材を採用したい考え。社長自らが営業活動をこなしてきたが、社内を見渡す時間を増やしたいという。

次に挙げるのが設計の内製化。ソフトウエアの購入や人材確保が必要になるが、設計の外注にかかる時間と費用を削減できる。将来は渡された図面の容器を作るだけでなく、強度面などを考慮して、自ら顧客に設計提案できる会社に変貌を遂げることを目標とする。

社員が開発した自社ブランド「松坂ギャフ」

大型品も対応可能な自社工場

当社の歴史

大阪29 ISO 9001

当社は昭和14年に創業しました。創業者で祖父の大竹翁輔（おうすけ）が日中戦争時代に金物を作っており、今からおよそ40年前に圧力容器の製造にも乗り出しました。需要が堅調な今、採用活動の強化のほか、研磨用の工場の新設を検討するなど、次のステージに向けて準備を進めています。

代表取締役社長 **大竹 順さん**

http://www.yamatokogyo-kk.com/

主な事業内容
ステンレス製の圧力容器製造

主な取引先（納入先）
化粧品・洗剤などのメーカー、エンジニアリング会社

●住　所　〒536-0004 大阪市城東区今福西4-2-12
●TEL　06-6932-2881
●FAX　06-6932-2885
●創　業　昭和14年10月
●設　立　昭和23年12月
●資本金　1,000万円
●従業員　15名